

**製品名: LSP1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13466**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	37kDa

**抗原情報**

遺伝子名	LSP1
別名	LSP1; WP34; Lymphocyte-specific protein 1; 47 kDa actin-binding protein; 52 kDa phosphoprotein; pp52; Lymphocyte-specific antigen WP34
遺伝子 ID	4046.0
SwissProt ID	P33241
免疫原	抗血清はヒト LSP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 104-153

**背景**

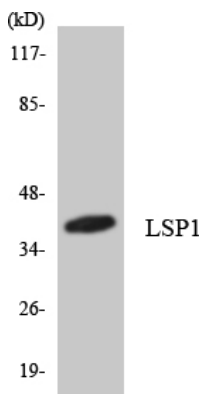
この遺伝子は細胞内 F-アクチン結合タンパク質をコードします。このタンパク質はリンパ球、好中球、マクロファージ、および内皮

細胞で発現し、好中球の運動性、フィブリノーゲンマトリックスタンパク質への接着、および内皮透過性遊走を制御すると考えられます。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: 好中球の活性化および走化性を媒介する役割を果たす可能性があります。、PTM: カゼインキナーゼ II、プロテインキナーゼ C、および MAPKAPK2 によってリン酸化されます。PKC によるリン酸化は膜から細胞質への移行を誘導します。MAPKAPK2 によるリン酸化は好中球の走化性を制御する可能性があります。、サブユニット: アクチンに結合する。、組織特異性: 活性化 T リンパ球。、

## 研究分野

-

## 画像データ



LSP1 抗体を使用した Jurkat 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。